

The Japanese
Society of
Practitioners for
Pediatric Dentistry

JSPPP

【入会方法】JSPPPのHP (<http://www.jspp.net/>) より入会資料請求フォームに記載の上、ご請求ください。
年会費 10,000円、入会金 10,000円

私と小児歯科の出会い

JSPPP 理事

庄内喜久子

(庄内こどもの歯科、北海道札幌市開業)



漠然と親が歯医者だから自分も歯医者くらいの考えで、それこそ、親に「大学受験の前に大学を見学に行ってくれば?」と言われ「東京に行ける! ラッキー!」軽い気持ちで見学に行きました。その時案内して下さった先生が小児歯科の先生でした。

当時の歯医者は子どもなんかあまり診たがらず、自分の子どもだから父がしぶしぶ治療をしてくれるというような状況でした。で一般歯科しか知らなかった私にとっては驚きでした。なぜなら、私が歯を治してもらっていた時は、父の太い指が口の中でいっぱいになり、「痛い」などと言おうものなら「ガマンせい!」とがっちり押さえこまれ身動きもできない状態で、涙を拭く間もなく治療されたというより無理やりやられていました。だから、父の所には行きたいけれど歯医者(治療)に行くのが嫌でお腹が痛くなるほうでした。

それが歯医者と思っていた私は、子どもの泣き叫ぶ声もなく、小さなお口の中をとっても簡単そうに治療している様子を見て、ここは何をしているのかと思いました。帰りにはニコニコしながら、「先生ありがとう」「またね～」などとケロっとしているではありませんか…驚いた!! 初めて見た小児歯科医って魔法使い?か、催眠術?かと、驚きました。

すごい衝撃を受けた私は、今、こうして憧れの小児歯科専門医となりました。

生まれ育った札幌に戻って小児歯科医院を開院しました。一旦、開業してしまうとなかなか専門的に勉強を続けていくのは困難でしたが、小児歯科をやると決めたからには認定医(当時は専門医はまだなく)をとらなきゃと必死で北海道医療大学の研究生としてがんばり、小児歯科専門医と障害者歯科認定医を獲得しました。

今年自分の小児歯科クリニックをリニューアル移転

開業しました。

これから、小児歯科医は変化していかなければいけないと思います。レスト、浸麻、ラバー、開口器などの子どもへのストレスがかかる器具を使用して治療をしなくても良いように、予防に重点を置いていかなければいけないと思います。それには、1.6歳、3歳検診の時だけの口腔ケアでは足りないと思われるので、0歳からの口腔ケアとして赤ちゃん歯科を、生まれる前のお母さんのお腹の中からの口腔ケアとしてマタニティ歯科を、また、発達障害の子ども達も早い時期から予防をしっかりすることによって口腔ケアへの拒否を軽減できると思います。小児病棟、小児がん患者、など小児歯科から小児科へ、口腔ケアに対しても積極的に参加していけるようになりたいと思います。

ふっと考えますと、私は子どもが好きで小児歯科になったのかしら?と考えるときがあります。痛みを我慢して頑張っている子どもを助けてあげたい、食べ物を美味しく食べさせてあげたい、と思っているだけなのですが…それから子どもたちは私の知らない感性を持っていて、違う視点からいろいろ考えさせてくれて、日々新しいことを教えてくれるからです。それともう一つ、泣いて嫌がる子どもを泣かせず最後に満面の笑顔を見せてもらえるから、それを見たい(その笑顔を見るのが何物にも代えられない私の娯楽)からなんだと思います。私は小児歯科医という仕事が大好きなんです!

大学を出てすぐにJSPPPに入会はしていましたが、参加もせず受け身でいたので何をやっているのかわかりませんでした。ひょんなことから理事をさせていただき、開業医の視点から行政、保険、また、子どもたちが今必要な事、望んでいる事をかなえてあげたいと日々努力している団体なのだとわかりました。結果、全国の小児歯科の実態、各医院独自の工夫、考え方、治療の進め方、立地条件、現社会における小児歯科医の立場などを勉強させていただきました。今回の移転にあたっては参考にさせていただいたことが多々あります。JSPPPには感謝しています。

全国の小児歯科を頑張っている先生もJSPPPに参加ご協力をお願いします。